

多摩永山中学校だより

編集・発行 校長 佐藤 信雄

<http://schit.net/tama/ihtamanagavama/>

九月 銀河の彼方へ

校長 佐藤 信雄

いよいよ9月を迎えました。生徒の皆さんは、9月というのを何を思い浮かべますか？

3年生であれば、8日（金）から始まる修学旅行がまず頭に浮かぶかもしれませんし、前回の定期テストで思わしくない結果だった人であれば、さあ名誉挽回だと気合を込めて21日（木）22日（金）の第2回定期テストを思い浮かべているかもしれません。10月には永光祭合唱の部もありますし、あれやこれやと頑張りたい行事や取り組みをたくさん思い浮かべる皆さんも多いことでしょう。

私が9月と聞くと心に浮かぶのは、文化祭です。以前高等学校でずっと勤務していましたから、クラスの担任として何回も文化祭を経験しました。食堂関係は1回もしたことがなく、喫茶店や縁日も1回だけで、ほとんどは演劇での参加でした。たいていは、なぜかわかりませんが「演劇やろうぜ」とクラスみんなが言い出して演劇になっていました。私が大の芝居好きだったことと何か関係があったのでしょうか。

高校の文化祭は、普通科高校であればたいてい9月に開催されます。6月くらいから参加企画をクラスで検討し、抽選などを経て決定するのが7月上旬です。劇を上演する場合、7月いっぱいには脚本と配役、スタッフの役割分担を決定し、夏休み中は何回も登校して練習や打ち合わせ、制作の準備に当たらなければなりません。それも部活動と並行して、時間をやりくりしてなるべく多くの生徒が集まれるように決めるのですから、文化祭実行委員は大変でした。稽古の時間になっても主役級の生徒が来ないので電話をかけたなら、寝坊したから今から行く、と、雨の中をずぶぬれになりながら慌てて駆けつけてきたこともありました。

こうした取り組みが最初から最後まで円滑にすすむことは、まずありません。「〇〇が来ない」「みんなやる気がない！」「背景の材料が足りない」など、困難は様々でしたが、一番難しかったのは、生徒みんなの気持ちがそろうことです。クラスの合唱のように、最初はなかなかまとまらないし、意欲を出さない生徒もいますし、逆にみんなを引っ張ろうと一生懸命な生徒もいて、なかなかみんなで一丸になるというのはできなかったのです。演劇の場合は、夏休み中はたいてい、誰かへの文句を言いつつ準備に明け暮れ、全員の気持ちがそろってくるのは文化祭1週間前くらいの、通し稽古が始まるころあたりだったのでしょうか。

このころになると、キャストはお互いに「台詞が頭に入っていないじゃないか！」「この脚本ははもっとこうしたらウケるのでは？」とダメ出しの連発になり、スタッフは迫りくる本番に備えて目を血走らせて、衣装を縫ったり金づちをふるったりペンキを塗ったりと、一体感を味わう間もなく過ごしていました。

そして当日は当日で、お客さんが来てくれるかクラスみんなは心配をします。そこでキャストは衣装を着てプラカードをもって、校舎内を練り歩いて客を呼び込み、入りきらないほどのお客さんが会場に来てくれていると知った時のみんなの喜びようは、それはたいそうなものでした。

芝居がはね、キャストとスタッフの紹介が終わってお客さんをお見送りすると、だいたい30分ほどは、キャストもスタッフも舞台上で寝転んでしまいます。緊張が解けたことと、疲れがどっと出るため、立っていられなくなるのです。そのあとキャストは舞台上で反省会に、スタッフは修理や点検に、そしてダンス部や吹奏楽部などの出演がある生徒はそちらに、と各々散っていきます。わずか30分ほどのお芝居ですが、1日に2回公演するのがやっとでした。それでもたくさんの人が見に来てくださると、みんなとても嬉しそうでした。

結果として金賞や最優秀賞をいただくことも多かったのですが、よい結果だったと分かるのは、実は公演後です。充実した行事ができた時は、その片付けも手速く、確実にできるものです。舞台を壊して、土台となったビールケースをトラックに積み込んで、衣装をたたんで、借りてきた機材を返却して、ゴミを片付けて掃除をして…。文化祭の非日常の空間と時間が、みるみるうちにいつもの日常のそれに戻っていきます。その寂しさを感じまいとしてか、黙々と片付けを進めます。こうした時こそ、その行事がどれほど真剣になされていたかがわかります。

体育祭で準優勝に終わり、悔し涙を流していた男子が3日後に「文化祭はこの芝居で」と企画をもってきたことがありました。中庭で演劇をしたら突然の秋雨で、ずぶぬれになって劇をしたことがありました。演劇部の子が脚本を書いたら、男子が奪い合って読み始めたので感激して泣き出したことがありました。あの生徒たちも、今はよいオトナになっています。たまに会った時、話題になるのはたいてい、文化祭か、修学旅行だったりします。

さあ、皆さん。皆さんはこの9月、この秋、どんな時間を過ごし、何にどう取り組みたいですか？

躍進する部活動 それ行け！たまなが中生！

○バドミントン部

- ◆多摩市市民大会中学生バドミントン大会（シングルス）
 - 田中 柚葵（2年） ベスト8
 - 田中 梨沙（2年） ベスト16

敬称略

7月30日（日）
多摩市総合体育館



○ソフトテニス部

- ◆ジュニアソフトテニス大会団体戦（多摩市中生大会）
 - 男子 優勝 多摩永山中学校 A チーム
 - 女子 優勝 多摩永山中学校 A チーム

7月2日（日）会場：多摩東公園テニスコート



優勝旗が輝いていますね！

よい夏の思い出になりました。多摩永山中学校ソフトテニス部の皆さんです。



おめでとう！ 男子Aチーム



お見事でした！ 女子Aチーム



◆東京都中学校ソフトテニス選手権大会

女子個人戦 7月21日（金）会場：有明テニスの森公園

3回戦進出 奥谷琉奈・高橋友香ペア（ともに3年）

2回戦 VS 荏原第一中学校ペア ○ 4-0

3回戦 VS 清明学園ペア ● 1-4

女子団体戦 7月23日（日）有明テニスの森公園

3回戦進出

1回戦 VS 目黒第十中学校 ○ 2-1

2回戦 VS 大島第一中学校 ○ 2-0

3回戦 VS あきる野東中学校 ● 0-2

女子団体のメンバー。都大会でも結果を出せました！

敢闘した奥谷・高橋ペア



男子団体戦 7月24日（月）八王子市松木公園テニスコート

1回戦 VS 糞谷中学校 ● 0-3

◆東京都中学校夏季新人研修大会女子個人戦

7月26日（水）
小金井公園

齊藤遥・田中桃音ペア VS 国分寺一中ペア ○ 3-1

（ともに2年） VS 高南中学校ペア ● 0-3



暑い中頑張った男子団体のメンバー

○バレーボール部

◆多摩市中学生バレーボール市民大会

優勝

優秀選手賞 村田 雅 (3年)

多摩永山〇25-5 ●鶴 牧

多摩永山〇25-15 ●東愛宕

多摩永山〇25-17 ●和 田

多摩永山〇25-18・25-15 ●多 摩 7月29日



市内最強のバレー部のみなさん



吹奏楽部の皆さん お疲れ様

○吹奏楽部

◆第63回東京都中学校吹奏楽コンクールB組 8月8日 府中の森芸術劇場

銅賞

みなさんへ 多摩市と学校からのお知らせ

私もあなたもみんなも 誰もがみな暮らしやすい社会のために

多摩市は、「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」第3条に定める基本理念に基づき、すべての人が性的指向・性自認による諸問題に対応し、暮らしやすい社会の実現に向けて、多様な性と生(LGBTQ+(エルジービーティーキュープラス)、SOGIE(ソジー))に関する取り組みを行っています。

その一つとして、広く市民の皆さんに性の多様性をご理解いただくため、性と生の多様性を伝えるリーフレット「LGBTQ+、SOGIE ってなんだろう?」を作成しています。ご関心がおありの方は、平和・人権課 平和・人権・男女平等参画担当(042-376-8311)へお尋ねください。本校(042-371-3701)にお問い合わせいただいても結構です。本校にも若干ですが予備があり、差し上げられます。

また多摩市では、同性が好きなお方、性別に違和感がある方、自分がそうかもしれないといった、性に関する悩みを抱えている人のために、LGBT電話相談を実施しています。家族や友人との関係、職場や学校のこと、身体のことなど、性的指向・性自認に関する悩み全般に専門の相談員がお話を伺います。お気軽にご相談ください。当事者の方だけでなく、家族、友人、教職員、職場の同僚からの相談も歓迎です。秘密は厳守されます。LGBT電話相談は毎月第3火曜日です。相談専用回線(042-355-2112)に直接おかけください。本校の教職員に相談しにくいという人も、秘密は守られますので、ぜひ先生方に声をかけてみてください。

※ 多摩市の取り組みはホームページを元にご紹介しています

本校でも、多様な社会に生きる生徒のため慎重に丁寧に取り組みを進めており、11月22日(水)には多摩市立TAMA女性センターと連携し、鈴木茂義さんを講師に「LGBTQ理解のための出前講座」を開催します。保護者の皆様もご参観いただけます。後日あらためてご案内いたしますので、ふるっておいでください。



多摩市のリーフレット

令和5年度 自己の進路選択のための説明・相談会(第一報)

多摩市教育委員会は、今年度も、不登校やその傾向のある生徒とその保護者の方向けに、近隣で特に理解と特色のある高校を招いて、入学選抜や学校生活に関する説明会と個別の相談会を開催します。

詳細や申込方法は、後日、生徒を通して配布物にてご案内いたします。また、ホームページや一斉配信メールにもご案内いたします。今回は第一報としてご覧ください。

日時 令和5年10月20日(金)、同27日(金) 両日とも午後2時~午後4時30分

場所 多摩市立教育センター202研修室(多摩市諏訪5丁目1番地) 本校から徒歩10分程度

内容 多摩市近隣の高校の学校概要、入学選抜、学校生活に関する説明と個別相談

申込 後日配布等いたしますチラシを参考に、個別に、二次元コードを使っての申込になります。

参加申し込みは10/4(水)までとなる予定です。

参加校 あずさ第一高校、KTCおおぞら高等学院、あすか未来高校、NHK学園高校、都立世田谷泉高校など、特色ある近隣の高校等が10校以上、参加する予定です。(開催日により参加校が異なります。)

その他 オンデマンドでの参加も可能です。(この場合、個別相談はできません。)

図書館へ行こう！ 多摩市立中央図書館編

小・中・高校生が表現する「戦争と平和」～平和の語り部になろう：紙芝居上演会～

多摩市立中央図書館では、多摩市立図書館×恵泉女学園大学平和紙芝居研究会KPKA（クプカ）×多摩市平和・人権課の連携企画展示として、「戦争と平和～ともに生きる～」を7月1日から9月2日の間、開催しています。その一環として、8月5日（土）には、本校生徒も参加した、『小・中・高校生が表現する「戦争と平和」～平和の語り部になろう：紙芝居上演会～』が開催されました。

当日は、本校生徒7名、小学生、高校生、そして平和紙芝居研究会KPKAの大学生が、心を一つにして平和への祈りを込めて、紙芝居を上演しました。縁があって同じ地域に共に過ごす、しかし異なる年齢の子供や若者が、心を合わせて平和を希求する紙芝居を上演できたことに対して、主催の皆様から当日おいでになられた皆様はじめ、全ての皆様に心から感謝申し上げます。たとえささやかなものであったとしても、これだけの子供や若者たちがこの日確かに、世界の平和を願って、その輪を広げようとしてくれました。それはもしかしたら『ハチドリのひとつく』であるかもしれませんが、極めて尊いひとつくであり、広がっていくひとつくであると、私は思います。

図書館は個人が読書を通して内面を豊かにできる場所であるとともに、多くの人間が集い、心を通わせ、その心を世界に向けて発信できる場所でもあります。このことを改めて知ることができたひとときでした。

参加生徒（敬称略）

紙芝居『二度と』 小嶋 來人（1年）、高橋 由真（3年）、永井 涼子（3年）、向 美羽（3年）

紙芝居『野ばら』 秋間 悠（3年）、川ノ口 悠（3年）

紙芝居『二度と』 稲垣 鞠奈（2年 2022年多摩市子ども被爆地派遣員）



「二度と」の開幕です



広島と長崎の惨禍があらわれます



被爆した樹木の叫び 「二度と…」



平和の鳥が世界に羽ばたきます



「野ばら」は悲しくも美しい作品です



哀感を上手に表現しました



平和の祈りが世界に伝えられます



クプカの学生の方の上演、お上手！

「幸せなら手をたたこう」は、恵泉女学園大学元学長の木村利人さんがフィリピンでのご自分の体験をもとに、世界の平和を祈念して作詞され、聞きなじんだアメリカ民謡の曲に合わせて作られた歌です。



最後は「幸せなら手をたたこう」の合唱でした